



With World

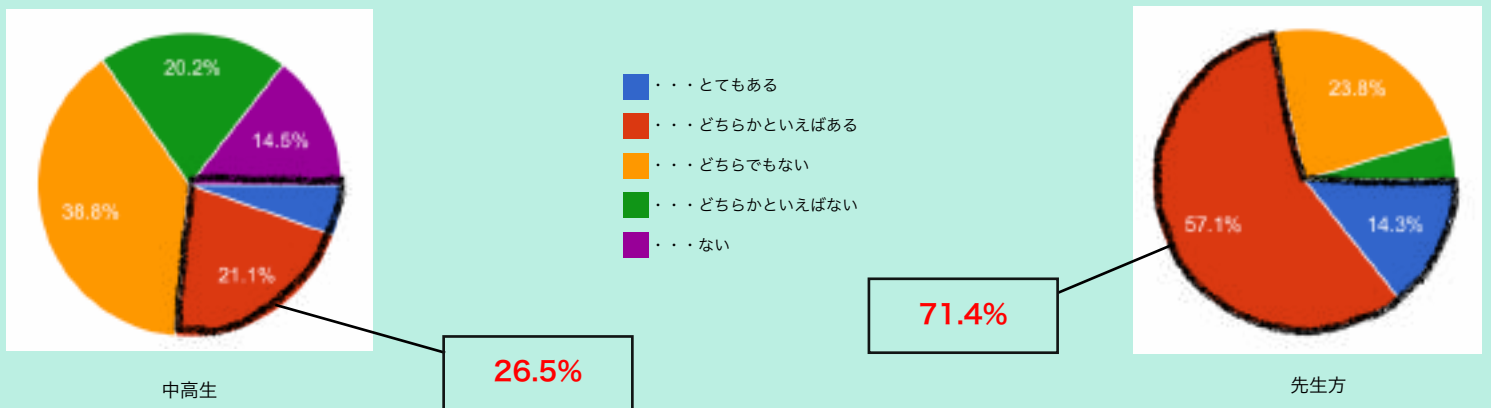
Annual Report

Our Goal -プロジェクトの目標-

“有機農業の需要が低いという現実を世間に広め、持続可能な食料生産を促進する”

日本はオーガニック食品の消費が少なく、有機農業をやりたいとくてもできないという農家の方々がいることを知った。それについてもう少し詳しく知りたいと思い、校内でアンケートを実施した。

中学生、先生方を対象にした農業に興味があるかという問いに対する結果



中学生、先生方を対象にオーガニック食品を食べることを意識しているかという問いに対する結果



このアンケート結果から現在の私たち中学生は先生方に比べて45%も農業への関心が薄いことがわかる。オーガニック食品を意識して食べているという質問に対しては中学生と先生方に大きな違いがなく、どの世代でもオーガニック食品を意識している人が少ないことがわかる。

この結果を受けて私たちはこのような目標を設定し、活動していこうと思った。

Motive -動機-

私たちは、高校1年生でSDGsと社会貢献というゼミを選択し、その活動を通して社会問題について調べ、日本がさまざまな問題を抱えていることが分かった。その中でも私たちは「農業」に目をつけた。そのきっかけになることが2つあり、まずメンバーの1人が学校の落ち葉を掃除していたときだった。拾った落ち葉をただ捨てるだけでなく何か他のことに利用できないかと考えたこと、次に学校近くの土手でゴミ拾いをしていたときにゴミがたくさん落ちていて、このゴミは土壤に影響を及ぼしているのか気になったことだ。



solution -解決策-

校内でSDGs、農業、オーガニック食品の関心についてアンケートをとり、中学生や高校生だけでなく先生方もオーガニック食品を食べようと意識している人が少ないことがわかった

1. セミナーの開催準備

校内でのアンケート結果からまず中学生、高校生にSDGsや農業に興味を持ってもらうことが必要だと考え、セミナーを開催しようと考えた。実際に行うことはコロナ禍で出来なかったが現在のアンケート結果を見せ、需要が低いことを理解してもらい、私たちがプレゼンで紹介するだけでなく自分たちで調べてもらい、発表してもらうことを予定していた。自分たちで調べることで有機農業にはこのようなメリットがあるんだとより実感してもらえと思った。このセミナーが開催できたら私たちのようなこれから国を支えるようになっていく世代に有機農業の大切さを伝えることができると思う。

2. ダンボールコンポストの作成

セミナーによってオーガニック食品に興味を持った人が、地域の有機農業をおこ人から有機野菜を買う際に、買ってもらった野菜を送る箱をダンボールコンポストにすることで購入だけで終わらせず、今後もダンボールコンポストとして使ってもらうことでダンボールのゴミ、生ゴミの排出を抑制でき、持続性のある活動になる。この活動について足立農業公園に行き、職員の方に協力して頂く予定だった。



Sustainability -持続可能性-

持続性

ダンボールコンポストで落ち葉や生ゴミから腐葉土を自ら作ることができる。

コロナ禍でネットで買い物をする人が増えたためダンボールは持続的に確保することが可能である。

継続性

自分たちのゼミの活動が終わってからも生徒会にこの活動を引き継ぎ、毎年ゴミとして扱われる落ち葉を回収し腐葉土を作り続けられる体制を作る。

SDGs -SDGsとの関連性-

2 飢餓を
ゼロに

有機肥料には土壌改良効果があるため持続的に農業を行うことができる。持続可能な農業システムは持続可能な食料生産を促進する。

12 つくる責任
つかう責任

有機食品の購入が持続可能な食料生産への貢献につながる。

6 安全な水とトイレ
を世界中に

化学肥料を使うことで土が痩せこけたり、雨が降った時に水路に流出されているという問題の解決になる。

Impact -社会的インパクト-

校内の中高生、先生方にアンケートを行ったことで今まで農業というものを考えたことがなかったという人々が少しでも農業に興味を持ってくれた。

アンケート実施後先生方に私たちの活動について話を聞かれたり、アドバイスを頂いた。